

交野市教委ニュース

第115号 (令和元年8月6日発行)

「ことばの力」を育む授業の実践

～交野小学校での取り組み～

交野市では、プログラミング教育の推進・外国語教育の充実・言語活用力の向上を3本の学びの柱として、9年間を見通した教育を実践しています。

今回ご紹介するのは、言語活用力の向上、すなわち児童・生徒の「ことばの力」を育む取り組みの1つとして行われている、交野小学校における国語科の授業実践です。

4年生国語科 「自分の選んだ本でおすすメッセージを書こう」

全5時間で構成される、4年生国語科の学習です。自分が読んだ作品に対して「この作品のここがおすすめ」という明確な根拠や理由とともに、その作品を友だちや全児童に紹介する文章を『おすすめメッセージ』と定義し、それを子どもたち一人ひとりが完成させることを目標とします。子どもたちは、45分間の授業の前半で、教科書の教材「一つの花」を用いてその書き方を学び、後半で自分が選んだ本のおすすめメッセージを考えていきます。

6月26日、4年1組で研究授業がありました。全5時間のうちの第4時間目の授業でした。めあては、おすすめメッセージを書くために、「自分のジーンとくるところを見つけて友だちと交流する」ことです。前半は、「一つの花」でジーンとくるところを、そして後半は、自分が選んだ本でジーンとくるところを見つけ、友だちと伝え合います。

今回の取り組みでは、「一つの花」の全文を黒板に掲示するという工夫がされていました。その全文シートの中で、「ジーンとくるところ」と「その根拠や理由」に線を引いたり矢印などを書き込んだりすることにより、子どもたちの発表や交流の内容をクラス全体で共有しやすくなっていました。子どもたちの手元にも同じように、一つの花と、自分が選んだ本の全文が印刷されたものがあります。それを用いて子ども達は、「この部分がこうだから、ジーンとした!」「ここも、〇〇さんが感じた『ジーン』につながってるかも?」と、思いや意見を生き生きと交流し合っていました。



ことばの力は、全教科で、全学年で、毎日育む

研究授業の後、参観していた全教員が図書室に集まり、今回の授業の流れや子どもたちの交流の様子等についてのふり返しを行いました。

さらに7月19日には、京都女子大学発達教育学部教授 水戸部修治先生にお越しいただき、全文を掲示することの意味や、子どもたちの効果的な意見交流の方法等について、講義いただきました。

また併せて、国語科だけではなく他教科においても、「わけを話す」「条件を踏まえて短く書く」活動など、無理なく継続的に行うことのできる、ことばの力を育む取り組みについて、具体的に教えていただきました。

水戸部先生のご助言のもと、今年度の交野小学校国語科の研究授業は、この後5年生、2年生と続きます。また研究授業だけでなく日々の学習においても、例えば1学期に6年生が、自分の選んだ本を紹介するために「ポップ」をつかって校内に掲示するなど、全学年において継続的に「書く」「話す」活動が行われています。

子どもたちの「ことばの力」表現がより豊かになるよう、学校全体で目標を共有し、活動を積み重ねていくことの大切さを学べる研修会でした。

